

「自立心・対話力・創造性」活力あるコミュニケーションで結ぶ学園広報誌

神女広報

vol.26
2018 Summer
CROSSROADS



神戸市立須磨離宮公園
「セレソン」

特集

社会福祉の中心的な担い手を育てる
神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科

- 6 教育研究活動
- 14 トピックス
- 16 地域連携
- 18 神戸女子大学附属高倉台幼稚園
- 19 インフォメーション

学校法人行吉学園

神戸女子大学 神戸女子大学大学院 神戸女子短期大学
神戸女子大学教育センター 神戸女子大学附属高倉台幼稚園

社会福祉の中心的な担い手を育てる 神戸女子大学 健康福祉学部 社会福祉学科

神戸女子大学健康福祉学部 社会福祉学科は、人間尊重と国民の健康と福祉の増進を基本的理念として、誰もが生き生きと生活し、自己実現できるように地域で支えあい、ともに暮らせる福祉社会を目指して、知性と感性・行動力をもつ専門職を養成しています。

少子高齢社会ではますます福祉の専門家への期待が高まり需要は増すばかりです。2025年には、高齢者の人口は約3,500万人に達すると推計されるなど、超高齢社会に備えるために医療・介護のサービス体制の根本的な見直しが必要とされ、福祉現場のリーダーとなるべき人材の養成も急務となっています。

今回は福祉社会のリーダーとなる担い手を育てる社会福祉学科の教育内容と最新の地域貢献活動など、友人とともに元気いっぱい学び成長している学生を紹介します。



しあわせの村において：平成30年度 新入生合宿オリエンテーションで教員も一緒に記念撮影

福祉を学ぶということ

日本では、少子高齢化の進展により、ますます福祉サービスに対する需要の増大・多様化が見込まれ、福祉の根幹である福祉人材養成はきわめて重要な国の課題の一つとなっています。今後の動向として、これら日本の現状はアジア諸国の近い将来を予測させるものであり、アジアの福祉先進国としての役割や期待値も大きく、国際的な視野、伝統文化、社会や自然に関する幅広い知識も求められています。それらを鑑み社会福祉学科では、行政・医療・福祉分野において、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士等の国家資格を取得して、希望の職場で活躍できることはもちろんのこと、企業・家庭・地域社会を含めて幅広く社会貢献できる人材養成を担っています。学部の国際健康プログラムⅠ・Ⅲの海外研修では、アジアの福祉を担うリーダーとしての役割も見据えた、国際的視点、情報活用力、論理的思考力、コミュニケーション力の向上を目指しています。このように福祉を学ぶことによって、女性として幅広く国内外において活躍できる「自分らしい人生」を切り開くことが可能になります。また、人権や尊厳、生活の質を保障する専門職として、未来の福祉社会を築く一員として需要が約束されています。



社会福祉学科 主任 泉 妙子教授

新入生合宿オリエンテーション

4年間をともに成長するための絆を深める

社会福祉学科では、将来の自分の姿を描き目的を持って、有意義な4年間の学生生活を一緒に送り、ともに学ぶ仲間との友情を育むスタートとして開設当時から毎年、学科独自のオリエンテーションを開催しています。

平成30年は、4月20日(金)から21日(土)の2日間、神戸市北区にある総合福祉ゾーンしあわせの村で新入生合宿オリエンテーションを開催しました。

合宿オリエンテーションでは、社会福祉施設や病院をグループごとに見学するプログラムが組み込まれています。各施設の担当者から、施設の役割や入所者の日常生活とそれに伴うサービスやケアの話を知り、見学したことを共有し学びを深める振り返りをクラス単位で行います。

初めて福祉施設を訪れる学生が大多数で、自分が訪問しなかった施設についてはクラスメートから情報を得ることができ、福祉への理解を深め、これからの4年間、福祉について学んでいく意欲が高まる契機となっています。

合宿の夕食は恒例のバーベキューで、火おこしから始まり、肉や野菜を焼いて食事する過程で学生たちはますます親しくなっています。

夕食後の教員主導のグループワークや学友会で活躍している3年生の先輩との交流会では、笑顔と歓声が絶えない楽しい時間を過ごしました。

合宿が終わる頃には、全員がすっかり打ち解け、新しい友達もできた学生たちの生き生きとした姿が見られます。



施設見学:アネックス湊川ホスピタル前で

見学先施設

- ワークホーム明友
- ワークホーム緑友
- 神港園しあわせの家
- アネックス湊川ホスピタル

クラスごとの施設見学の振り返り



バーベキューの様子



グループワーク:手作りの名刺を作って交流会

社会福祉学科のあゆみ

- 平成8年4月 文学部社会福祉学科として須磨キャンパスに開設
- 平成18年4月 健康福祉学部健康福祉学科に改組
ポートアイランドキャンパスに移転
- 平成21年4月 健康福祉学部社会福祉学科に名称
変更、現在に至る

豊かな人間性を培う社会福祉学科の教育課程 基礎から高度な知識・技術までを修得

カリキュラム・ポリシー

1. 人権尊重・社会正義・利用者の最善の利益・ウェルビーイングなどに基づく社会福祉の基礎を身に付ける教育を目指します。
2. 社会の福祉課題に関心が持てるように、講義・演習・現場実習・ボランティア活動・国際交流など多様な教育方法を用います。
3. 社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の各国家資格基準に準拠した専門教育を充実するとともに、資格別履修方法の工夫により社会福祉の専門性の深化を図りながら国家資格取得を目指します。
4. 国家資格指定科目に特化しない多様な選択科目群を設定し、さらにグローバル（グローバル&ローカル）な視点から生活・福祉・文化を考える力を養います。

授業 Pick up



実技・実習「生活支援技術Ⅱ（応用）」
高齢者擬似体験セットをつけて運動機能が低下している人への支援技術を学ぶ



演習「社会福祉演習Ⅰ」
入学後から「社会福祉入門ゼミ」で社会福祉に関心を高め、基礎的な知識を習得する



講義「就労支援サービス」
雇用対策、労働法制、就労支援を行っている機関や事業所、専門職の役割を理解する

社会福祉学科でカリキュラムに定められた所定の単位を修得すれば次の国家資格の受験資格が取得できます。

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士

国家試験合格率

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
社会福祉士国家試験					
受験者数	46	51	47	57	48
合格者数	26	25	29	32	29
合格率	56.5%	49.0%	61.7%	56.1%	60.4%
全国の合格率	27.5%	27.0%	26.2%	25.8%	30.2%
精神保健福祉士国家試験					
受験者数	12	10	5	6	5
合格者数	10	9	4	5	4
合格率	83.3%	90.0%	80.0%	83.3%	80.0%
全国の合格率	58.3%	61.3%	61.6%	62.0%	62.9%
介護福祉士国家試験資格					
受験者数	-	-	-	-	22
合格者数	-	-	-	-	22
合格率	-	-	-	-	100%
全国の合格率	-	-	-	-	70.8%

* 介護福祉士国家試験については、社会福祉士及び介護福祉士法の改正により、平成29年度から介護福祉士国家試験の受験が必須となった（ただし実技試験は免除）

毎年100%近く就職率を達成

国家資格を生かして医療・福祉施設を中心に一般企業にも就職し、公務員にも採用されています。介護福祉士としてはもちろん、最近では社会福祉士の資格を生かして、病院や行政機関でソーシャルワーカーとして活躍する卒業生が増えています。

地域連携

地域の人々とともに学ぶ

「生活支援技術Ⅱ(応用)」(担当：津田 理恵子教授)では、人の尊厳を守り、その人の状態・状況に合った生活支援を習得するための授業を行っています。学内の実習に加え、平成29年度からボランティアグループ「すまいる」が運営する高齢者対象の「すまいるカフェ」で、レクリエーションを企画・運営する現場での学びを継続しています。

津田教授が「思い出を活用した地域作りから生きがいの向上へ」という演題の講演を公開市民講座で行ったことがきっかけとなり、キャンパス近くの集会所で開かれている「すまいるカフェ」でより実践的な知識と技術を習得できるための場を提供していただくことになりました。

「生活支援技術Ⅱ(応用)」を履修している学生は、高齢者の皆さんが無理なく参加し、脳の活性化や運動機能の改善につながるようレクリエーションを工夫しています。ゲームの後は、お茶をいただきながら参加の皆さんからご自身のさまざまなエピソードを聞いたり、大学生活の話を探ねられたりと楽しくコミュニケーションをとっています。「すまいるカフェ」は一人ひとりの個性を重んじ細かい配慮ができるようになる学習の場となり、学生にとってレクリエーションで高齢者の皆さんの笑顔が見られることが福祉の学習を進める上で大きな励みとなっています。



「すまいるカフェ」の様子

社会貢献活動

「おいしく食べるための工夫を学ぶ」公開講座
神戸女子短期大学の食物栄養学科と連携

平成30年2月24日(土)に社会福祉学科と神戸女子短期大学 食物栄養学科の共催による「おいしく食べるための工夫を学ぶ」講座をポートアイランドキャンパスで開催しました。

この講座は、加齢や病気などで「嚙む(咀嚼)」、「飲み込む(嚥下)」機能の衰えた人がいつまでもおいしく食事ができ、食事中に思わぬ事故にあわないようにするために日頃の対応や介護方法を学びたいという市民の皆さんを対象にした公開講座です。当日は20名の参加がありました。

社会福祉学科の木村 あい准教授が加齢に伴う咀嚼・嚥下機能の低下・障害について解説し、食事の姿勢と食事介護の基本的な技術について講義しました。そして神戸女子短期大学 食物栄養学科の竹内 美貴助教は、誤嚥を防ぐために嚥下しやすい食材や調理方法について解説し、普通食を食べやすくアレンジしたソフト食の実演を行いました。短期大学の学生が当日調理したソフト食や市販の介護食の試食会もあり、受講者の皆さんは、普段の食事と見た目も味も変わらない食事を実際に味わいました。そして介護される人が安全で喜んで食事ができることがわかったと大変好評で、今後もこの講座を継続して欲しいという要望が寄せられました。

社会福祉学科の学生は、受付やソフト食と介護食の配膳をサポートするボランティアとして参加し、家庭で介護する家族の実情を知ることで今後の福祉を学ぶ意欲が高められました。

ソフト食・介護食の試食会のメニュー



焼き魚、ブロッコリー、トマト



↑手前左から時計回りに、お粥ゼリー、焼き芋のデザート、かぼちゃの含め煮、卵焼きゼリー、味噌汁ゼリー、さくら大根漬(中)



←手前左から時計回りに、お粥ゼリー、焼き芋のデザート、肉じゃが、卵焼きゼリー、味噌汁ゼリー、金時豆(中)



木村あい准教授の講義の様子



ソフト食と介護食を配膳する学生



木村あい准教授(前列左)と竹内美貴助教、短期大学の学生(紺色のエプロン)と社会福祉学科の学生

*この講座はポーアイ4大学による連携事業「ポーアイ健康推進プロジェクト」の一環として実施

古典芸能研究センターからのお知らせ



公開研究会「古典芸能研究の横断と総合」

神戸女子大学古典芸能研究センターは、平成29年11月25日（土）に公開研究会「古典芸能研究の横断と総合」を開催し、約60名の参加者を迎える盛況となりました。



午前は、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長 時田アリソン氏の講演「世界の中の日本芸能」でした。平家物語、浄瑠璃といった語り物に焦点をあて、日本以外のイタリア、韓国、中国など世界各国にも語り物の伝統が存在することを紹介した上で、日本の語り物の特徴についての興味深い指摘がなされました。

午後のシンポジウムは、公開研究会のテーマである「古典芸能研究の横断と総合」について、各分野の研究者を交えて発表と討論を行いました。

名古屋大学大学院文学研究科教授 阿部 泰郎氏は、本学の故 伊藤正義名誉教授の研究業績に言及しつつ、特に金春禅竹の言説を取り上げて、中世芸能の宗教的背景についての見解を発表しました。

京都造形芸術大学舞台芸術研究センター所長 天野 文雄氏は、能楽研究の現況についての解説の後、『風姿花伝』第五奥義を取り上げ、「奥義」が持つ意味を指摘、そこから見える『風姿花伝』の構造や成立事情、世阿弥にとっての「秘伝」意識について発表しました。

神戸女子大学古典芸能研究センター長 川森 博司教授は、東北地方のなまはげや沖縄のミルク神などの来訪神に関わる儀礼を紹介し、折口信夫や岡本太郎の言説を引用しつつ、民俗芸能の視点から古典芸能のあり方を探ることが可能ではないかという提言をしました。

討論は、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授 藤田 隆則氏の司会により、発表者3名に時田氏も加わって行われました。藤田氏の巧みな主導のもと、それぞれの立場から古典芸能研究に関するさまざまな視点について活発な意見が交わされました。



京都市立芸術大学
日本伝統音楽研究センター
所長 時田アリソン氏



京都造形芸術大学
舞台芸術研究センター所長・
古典芸能研究センター客員研究員
天野文雄氏



名古屋大学大学院
文学研究科教授・
古典芸能研究センター客員研究員
阿部泰郎氏



京都市立芸術大学
日本伝統音楽研究センター
教授 藤田隆則氏

この公開研究会は、平成25年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された古典芸能研究センターの研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」の一環として開催しました。

展示「近代神戸の能楽～大正・昭和初期を中心に～」

平成29年11月20日（月）～平成30年1月19日（金）に、古典芸能研究センター展示室で、展示「近代神戸の能楽～大正・昭和初期を中心に～」を開催しました。この展示では、モダンな港町として知られた神戸が、大正から昭和初期にかけて謡の盛んな街であったということ、所蔵資料や写真を通じて紹介しました。センターでは、地元の研究機関として、近代神戸の能楽に関する資料を積極的に収集しています。それをもとに、これまで、戦前に神戸にあった能楽堂や、神戸で刊行されていた能楽専門誌をとりあげた展示を行いました。今回は、その内容に新たに収集した資料を加えて、当時は珍しかった能楽堂以外での能の公演や、雑誌記事からうかがえる能の観客層の広がりなどにも触れつつ、自由で新しい当時の神戸の能楽事情を紹介しました。展示の情報は、テレビ・ラジオ・広報誌などで地域に紹介され、大勢の見学者を迎えました。



展示「志水文庫の大津絵と大原神社の絵馬「踊り子図」」

平成30年2月5日（月）～3月30日（金）に、展示「志水文庫の大津絵と大原神社の絵馬「踊り子図」」を開催しました。この展示では、センター所蔵の志水文庫の大津絵と大津絵に関わるいくつかの演劇資料を組み合わせ、あわせて京都府福知山市にある大原神社のご厚意により、同神社所蔵の貴重な絵馬「踊り子図」（福知山市有形民俗文化財）も展示しました。

志水文庫の旧蔵者で本学名誉教授の信多 純一先生は、近松門左衛門作の浄瑠璃『傾城反魂香』についての論考の中で、文中に現れる大津絵の画題に言及、以後、大津絵に深い関心を寄せられてきました。その集大成である著書『祈りの文化—大津絵模様・絵馬模様』（思文閣出版 平成21年）で、「藤娘のルーツ」として紹介されているのが、今回展示した大原神社の絵馬でした。大津絵は、京都と近江の境である追分の地で近世以来土産物として売られていた素朴な絵画ですが、近年、展覧会の開催や美術雑誌での特集など、再び脚光を浴びつつあります。こうした動きの中で開催したこの展示には、全国から研究者や愛好家も迎えて盛況でした。



大原神社蔵 絵馬「踊り子図」
（福知山市有形民俗文化財）

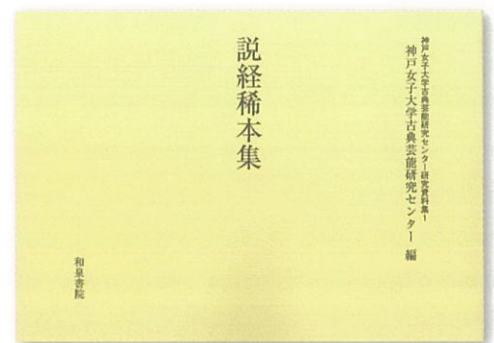


平成30年
3月刊行

神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集1

『説経稀本集』

古典芸能研究センターでは、学内外の貴重資料を紹介する「神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集」の刊行を開始しました。第1冊目となる『説経稀本集』は、平成28年度刊行の『説経 人は神仏に何を託そうとするのか』（神戸女子大学古典芸能研究センター叢書3）を補う資料集です。ドイツ・フランクフルト市立工芸美術館蔵フォーレッチ・コレクションの奈良絵本や個人蔵の稀書を収めています。



和泉書院 本体価格 3,800 円

平成30年度 科学研究費助成事業採択状況

平成30年度の科学研究費助成事業について、本学園の採択件数は大学36件（継続29件、新規7件）、短期大学2件（継続2件）でした。科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的資金」であり、ピアレビューにより、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

平成30年6月現在

研究種目	研究代表者	研究課題名
基盤研究(B)	家政学部・教授 砂本 文彦	日本統治期朝鮮の貸家と都市構造に関する研究
基盤研究(C)	文学部・教授 小原 依子	リハビリテーション病院における音楽療法の効果判定と技法開発のための実践的研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 山根 千弘	コットンギャップを埋める再生セルロースの構造設計と制御
基盤研究(C)	看護学部・教授 玉木 敦子	地域母子保健における周産期うつ病の予防的介入に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・准教授 木村 万里子	いんげん豆類に含まれる高機能性オリゴ糖の探索とその構造解析
基盤研究(C)	看護学部・教授 加治 秀介	Y2受容体発現を指標とする脂質異常症改善栄養素・薬剤の探索
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授 糸井 亜弥	児童の身体活動量、16～20年後の変化(都市部・農村部の同一小学校における調査)
基盤研究(C)	文学部・教授 田中 美紀子	カントの批判哲学から晩年の思想への発展-『オプス・ポストムム』の全訳に向けて
基盤研究(C)	文学部・教授 安原 順子	日本語教員養成と日本語学習者のため双方向学習プログラムの研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 植戸 貴子	中高年知的障害者と高齢の親の同居家族への相談支援：障害分野と高齢分野の有機的連携
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 小笠原 慶彰	近代神戸において社会事業の展開に寄与した人物に関する研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授 佐藤 誓子	特別支援学校における摂食・嚥下障害を有する児童・生徒に対する給食整備に関する研究
基盤研究(C)	看護学部・講師 馬場 敦子	外来通院中の高齢糖尿病患者のフレイルを改善・予防するマネジメントプログラムの開発
基盤研究(C)	看護学部・教授 下敷領 須美子	短期母乳栄養を選択したHTLV-1陽性妊産婦への訪問助産師による継続支援の開発
基盤研究(C)	看護学部・教授 藤田 冬子	介護者のためのエンハンスメント・プログラム活用による在宅療養支援
基盤研究(C)	幼児教育学科・准教授 畠山 由佳子	子ども虐待ケースに対する区分対応システムでの支援型対応実践モデルの開発的研究
基盤研究(C)	文学部・准教授 久野 和子	「公共空間」としての図書館の先進的研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 置村 康彦	分岐鎖アミノ酸と成長ホルモンによる筋萎縮抑制作用の分子機構の解明
基盤研究(C)	看護学部・准教授 丸山 有希	小中学校におけるいじめ・いじめ発作対応に関する教育プログラム開発と効果の検証
基盤研究(C)	文学部・教授 今井 修平	西播磨小藩・旗本領における領主支配と地域社会構造の歴史的研究
基盤研究(C)	文学部・教授 大西 雅裕	母子家庭に関する貧困問題対策の実証的研究 -母子家庭支援策の構築を目指して-
基盤研究(C)	看護学部・講師 藤原 由子	アトピー性皮膚炎患者が治癒するときの「身体性の変化」を支える方法の開発
基盤研究(C)	看護学部・教授 内 正子	慢性疾患をもつ小児のためのクリニックにおける地域生活型看護ケアプログラムの開発
基盤研究(C)	看護学部・准教授 笹谷 真由美	特別養護老人ホームにおける看護実践能力尺度の開発と検証
基盤研究(C)	幼児教育学科・准教授 永井 久美子	保育職におけるバーンアウトの影響要因についての探索研究
基盤研究(C)	文学部・教授 狩野 恭	アビダルマ以後における仏教的存在論と恒常的存在の存在論証との論争の系統的研究
基盤研究(C)	文学部・教授 森 尚也	サミュエル・ベケットにおけるモナド的運動：身体運動からイメージ運動・(流動)へ
基盤研究(C)	文学部・准教授 岡墻 裕剛	近代日本における漢字集合の字種・字体の変遷
基盤研究(C)	家政学部・教授 後藤 昌弘	低温スチーミングによる野菜類の加熱調理条件と食味および栄養成分の関連について
基盤研究(C)	家政学部・教授 梶木 典子	移動型遊び場(モバイル・プレイ)による子どもの外遊びの推進と都市公園の利活用
基盤研究(C)	看護学部・教授 洪 愛子	専門看護師と認定看護師が提供する看護サービスのアウトカム評価指標開発
基盤研究(C)	看護学部・准教授 田村 康子	モロッコにおける産痛緩和ケアに関する助産師基礎教育モデルの開発
挑戦的萌芽研究	健康福祉学部・准教授 清水 弥生	認知症の人の生活ニーズを中心とした生活支援モデルの構築
挑戦的萌芽研究	家政学部・教授 砂本 文彦	農地転用メカニズムとしてみた軍港都市の形成と地域社会の応答に関する研究
若手研究(B)	文学部・准教授 本田 隆裕	空範疇・空演算子に対する英語前置詞と日本語格助詞の平行性
若手研究(B)	健康福祉学部・准教授 川端(ホト) 麗子	高齢外国籍住民の集住地域における「多文化共生型相互支援モデル」の構築
若手研究(B)	看護学部・助教 奥井 早月	2型糖尿病患者への治療中断防止の支援モデルの開発
研究活動スタート支援	看護学部・助教 鷺田 幸一	慢性心不全患者の療養環境・療養行動・QOLに関する調査

※ゴシック文字は今年度新規採択(7件)

科学研究費助成事業に採択された研究紹介

リハビリテーション病院における 音楽療法の効果判定と技法開発のための 実践的研究

研究期間：平成 27 ～ 30 年度
研究種目：基盤研究 (C)

神戸女子大学 文学部 教育学科 教授 小原 依子



誰もいろいろな形で音楽に親しんでおられると思います。好きな音楽を聴いたときのあの染み入る感じも身近なことではないでしょうか。音楽は、「聴覚刺激」という媒体であるからこそ、心身への作用が大きいことが特徴です。その作用については、脳波・心拍・筋電図・皮膚電気反射…といったポリグラフ研究手法や、サーモグラフィー、重心動揺計などさまざまな生理指標を駆使して、生体反応の変化を捉えることを試みてきました。同時に我が国の動向としては、音楽療法の需要が高まる中、平成13年に「日本音楽療法学会」が設立され、音楽療法の治療効果についての科学的根拠も強く求められるようになっていきました。いわゆる医学モデルでのEBM (evidence based medicine) です。臨床心理学を専門としている立場からも、音楽療法において今後求められてくる大きな課題は「効果判定」の問題であろうという問題意識にたち、これを現在も追究し続ける研究テーマの一つとしています。そこで平成13年より音楽療法独自の治療構造を反映した『心身障害者用：音楽療法評価表 (MTCL-YK : Music Therapy Check List-YK version)』の開発に着手し始めました。同じ頃、阪神淡路大震災を経験した兵庫県では、その復興への過程の中で、命の尊厳の重要性に立ち返るそれぞれの思いの中に“音楽の果たす役割”への願いが高まり、音楽療法推進事業が立ち上げられました。そして、この評価表開発研究を「兵庫県こころのケアセンター」(平成17年度)・「兵庫県健康生活部」(平成18～19年度) (日本生命財団助成) での音楽療法研究

の中心的テーマとしたいという依頼があり、兵庫県における実践研究の座長を務めさせていただくこととなりました。そうして県下の医療・福祉施設における大所帯の実践的共同研究のスタイルが確立していきました。ここでは特に高齢者領域での音楽療法の需要の高まりから、『高齢者対象用：音楽療法評価表 (MTCL-YK (S))』の開発を試み、その成果を報告しました。このような経過の中で、さらに医療領域での音楽療法の評価指標に着手する必要性が見いだされ、「兵庫県立リハビリテーション中央病院」での共同研究を進めることになりました。“あらゆる精神機能の基盤とされる「注意」機能”への有効な音楽療法技法確立を目指し、『注意障害対象用：音楽療法評価表 (MTCL-YK (DOA))』の開発^(注)を行いました。MTCL-YK (DOA) は信頼性・妥当性検証を重ね実用化の段階に入っています。また、パーキンソン病の治療やリハビリテーションにおいて音楽療法の有効性が検証されてきている現在、パーキンソン病対象の音楽療法技法とその効果判定の評価表 (MTCL-YK (PD)) の開発を進めています。

音楽療法において“多様な疾患・障害に合わせた評価法として統一されたもの”は、我が国においては未だ模索段階であり、これらの確立は音楽療法の治療的理論構築、技法開発がなされていくことへの基本的要件であると考えます。地道な作業の積み重ねの研究ではありますが、この課題に向けて、今後は開発した評価表の実施マニュアル作成を目指しています。



学部のゼミ生に音楽療法の説明をする小原教授



大学院生と学部生との共同研究：サーモグラフィーを用いた実験風景

(注)「リハビリテーション病院等における音楽療法の効果判定に関する実践的研究」(基盤研究(C))平成21～24年度

健康栄養学研究科 第一期生飛び立つ

神戸女子大学健康栄養学研究科 健康栄養学専攻修士課程は平成28年4月に、健康福祉学部健康スポーツ栄養学科を基礎学部として開設されました。同学科から4名の学生が進学し、栄養学を中心に捉えた「健康」をキーワードに横断的な研究を行い、健康を構成する主要な要素である「栄養」と「運動・スポーツ」をベースとした修士論文を作成、全員が修士課程を修了し、平成30年3月16日（金）の学位記授与式に初めての修了生として学位記を手に入れました。

今後も研究を続ける修了生、培った専門知識を生かす職業に就く修了生など「健康栄養学」に精通した人材として今後の活躍が期待されています。

健康栄養学研究科修士論文題名

- 骨粗鬆症モデルマウスにおけるマグネシウム、銅、亜鉛摂取による骨代謝への影響（新垣 あやね）
- γ -シクロデキストリン包接R- α -リポ酸やクルクミンの生体への影響 - 運動パフォーマンス並びに同位体比の変動から（橋本 優希）
- 糖質制限食を高たんぱく質食で補った際の生体への影響 - 植物性たんぱく質と動物性たんぱく質の違いから -（宮崎 真未）
- 居住形態が異なる高校生硬式野球部員の食生活の検討（安原 叶）



健康栄養学研究科長の吉川豊教授と記念撮影

家政学研究科の大学院生が平成30年度笹川科学研究助成を獲得

神戸女子大学家政学研究科 生活造形学専攻 博士前期課程 白川 未希子さん

研究課題 「都市公園を活用した移動型遊び場のあり方に関する研究」



研究室でデータをまとめる白川未希子さん

白川さんは、神戸女子大学家政学部 家政学科在籍中、安心して快適に暮らす社会の実現を目指し、人と環境にやさしく、持続可能な住空間や地域空間について専門的に学ぶ住空間コースを選択し、地域居住学や都市計画を専門とする梶木 典子教授の指導の下、安全マップ活動について研究しました。その後、子どもが屋外で自由に遊べる環境が年々厳しくなっていることを憂慮し、子どもの遊び、遊び場について研究したいと考え大学院に進学しました。

学業や習い事に追われている現代の子どもたちは、遊ぶ時間や仲間、特に屋外で遊ぶ場所が少なくなっています。全国的に遊び場として使われなくなった公園が老朽化するという問題も発生し、公園での禁止事項は増加し、子どもの自由な遊びも制限されていく状況です。

子どもにとって自由で豊かな遊びをすることは、主体性、自己防衛本能、身体能力、道徳観、社会性を身に付けるために必要不可欠なものです。

白川さんは、子どもたちの遊びを見守り、相談相手にもなる「プレイワーカー」とよばれる大人が自動車に遊び道具を乗せて各公園に遊びを出前する移動型の「プレーパーク」に焦点を当て、子どもの自由な遊びを保障し、使われていない公園の有効活用を提案する研究内容が評価され、研究助成を受けることになりました。

この研究の成果があがると、都市公園が自由な遊びや放課後の居場所となり、公園の有効活用やまちづくりにも寄与することにつながります。



梶木典子教授(左)から研究指導を受ける白川さん

イギリス ケント大学 留学生紹介

4月12日(木)から2週間、イギリスのケント大学から「イギリス・ケント大学生短期受入れプログラム」の第4期生として、Janee Gagnon (ジャーネー ガンニョ、以下ジャーネーさん)が来日し、日本語、日本文化を学びました。

これまでのケント大学の短期受入れプログラムは須磨キャンパスのみで行われてきましたが、今回初めてポートアイランドキャンパスでも健康福祉学部、看護学部の学生と交流する機会が設けられました。

ジャーネーさんは、12日に中島 實学長をはじめ、部局長の教職員に挨拶をし、図書館のライブラリー・コモンズで開催されたウェルカム・パーティーに出席し、集まった学生たちに日本語で自己紹介をしました。

ジャーネーさんは、ケント大学でアジア学と考古学を専攻していますが、叔母さんが日本で英語を教えていたことがあり、子どもの頃から日本語と日本文化に興味を持っていました。日本の歴史にも関心があり、休日には、生田神社、姫路城、伏見稲荷大社等に行きました。将来は考古学の研究をしたいというジャーネーさんは日本の大学院に進学したいと考えています。その前に、日本への理解を深めるためにこのプログラムに参加しました。留学生向けに開講している「日本語」の授業では、他の国の留学生と一緒に日本語を学び、さらに文学部日本語日本文学科の専門科目「古典芸能講読」を受講し日本の伝統芸能に触れました。



全学共通教養科目「基礎演習Ⅱ」(野口和美教授担当)の授業で受講生からケント大学について質問を受ける

全学共通教養科目の授業にも出席し、ケント大学と大学のあるカンタベリーの町についてパワーポイントを使いプレゼンテーションを行いました。広々とした美しいキャンパスに充実した施設のあるケント大学や有名な歴史的建造物であるカンタベリー大聖堂などの説明をきいた受講生の中にはケント大学へ留学したいと思う学生も出てきました。

日本語を学ぶ授業に加えて、日本語日本文学科の学生がチューターを務めて、ジャーネーさんの学びを助けました。ランチタイムには「英語で話そう!」という時間があり、さまざまな学科の学生が集まり会話を楽しみました。課外活動では、華道部、弓道部、剣道部の練習に参加し、明るく親しみやすいジャーネーさんの周りには、常に学生が集まりました。



ケント大学のプレゼンテーションを行うジャーネーさん



ランチタイム「英語で話そう!」の時の様子

このプログラムの母体となった文学部英語英米文学科の専門科目では各教員のティーチング・アシスタント役になり、学生の英語理解に貢献してもらいました。

短い期間ではありましたが意欲的に日本語を学び、積極的に日本の文化に触れ有意義な時間が過ごせたようです。



健康スポーツ栄養学科の学生に卵焼きを教わるジャーネーさん(左)



各クラブで日本の文化を体験しました。華道部・剣道部・弓道部



- 1983年 ハワイ大学(米国)
- 1993年 ケント大学(英国)
- 1997年 フライブルク大学(独国)
- 2000年 華南師範大学(中国)
- 2006年 オークランド工科大学(ニュージーランド)
- 2006年 ピッツァー大学(米国)
- 2010年 ウダヤナ大学(インドネシア)

- 2010年 西安工程大学(中国)
- 2010年 カセサート大学(タイ)
- 2010年 高麗大学(韓国)
- 2011年 チェンマイ大学(タイ)
- 2011年 カリフォルニア州立ポリテクニク大学ボモナ校(米国)
- 2014年 静宜大学(台湾)
- 2017年 アイルランガ大学(インドネシア)

神戸女子短期大学 ウエディングドレスショー

平成30年1月16日（火）に、ポートアイランドキャンパスにおいて、神戸女子短期大学の古田 貴美子講師が担当する総合生活学科・被服製作ゼミの学生11名による「ウエディングドレスショー」を開催しました。

被服製作ゼミでは一年かけて学生一人ひとりがデザインを考案、生地選びから縫製まで行い、ウエディングドレスを作り上げます。その集大成としてウエディングドレスショーを行っています。

ショーでは6名の男性教員が学生をエスコートしました。学生たちは、色とりどりの鮮やかなドレス、バックスタイルにも工夫を凝らしたドレスなど、それぞれの思いの詰まった優雅なドレスを身に纏って登場。集まった多くの学生や教職員から感嘆の声とともに多くの拍手が送られました。これらのドレスは、制作展「ブルーム展」にも展示されました。



ショーの後、全員で記念撮影、右端が古田貴美子講師

神戸女子短期大学 創造性をかたちに 第20回ブルーム展

平成30年1月27日（土）から2月1日（木）まで、神戸市中央区のTOR GALLERY（トア・ギャラリー）にて「第20回ブルーム展」を開催しました。

この作品展は、神戸女子短期大学の総合生活学科・食物栄養学科・幼児教育学科に所属する学生が、授業やゼミで制作したさまざまな作品を展示する制作展です。他学科の学生の作品を一斉に見る事ができるので、学生たちからも好評の展示会です。今回はウエディングドレスや絵本、手工芸品など約140点の作品が展示されました。

展示会初日、会場で受付を担当していた総合生活学科の学生は「マナーポスター」を作成し出品。「多くの人に駅や電車でのマナーを考えてもらえたら」と構想を練り完成まで一年をかけた作品を多くの来場者の方に見ていただきました。作品へのお褒めの言葉や感想は学生にとって大きな励みになっています。

展示された作品



神戸女子大学家政学部 家政学科 地域の魅力と活性化へ向けたパンフレット作成

● 都市デザイン演習で「須磨浦」の可能性を引き出す

家政学部家政学科の平成29年度後期の授業「都市デザイン演習」(担当：梶木 典子教授)の受講生29名が、地元の須磨浦の活性化のために個性溢れるクリエイターたちに集まってほしいという願いのこもったパンフレット「クリエイターが集まるパンフレット」を作成しました。この授業では、多様化している都市の課題に向き合い、そこに暮らす人びとの生活を魅力あるものにするために今後の都市のあり方を考えています。



完成した「クリエイターが集まるパンフレット」6枚が一つのクリアホルダーに入っている

JR神戸線の須磨駅で電車を降りると目の前に広がる須磨海岸。その海岸に沿って東西にのびる商店街。そして、須磨の名所旧跡、景勝地に隣接する「須磨浦」は、駅前の開発が相次ぐ市街地のなかで何十年もその姿が変わらず、どこことなく懐かしさを感じさせる街です。創造的な仕事をしている起業家「クリエイター」の皆さんに「須磨浦」を紹介し、その魅力をさらに引き出してもらい街の活性化につなげようという目的で今回の授業は始まりました。

作業の工程では6グループに分かれ、それぞれのグループでまず自分たちの視点で「ここにしかない」ものを求めて須磨浦を隅々まで歩く実地調査を開始し、各グループは、独自の視点で「須磨浦」の魅力を発見。各グループのキーワードは、動物、須磨浦に溢れる色、鉄道、海を楽しむ生活、写真撮影のスポット、浜辺に広がるお店マップなど、多彩なものに。発見した魅力をグループごとにプレゼンテーションを行い全員で相互評価をして、伝え方や見せ方のブラッシュアップを繰り返し各グループが1枚のリーフレットにまとめました。6枚のリーフレットが出来上がりそれを一つのクリアホルダーに入れ「クリエイターが集まるパンフレット」が完成しました。



完成したパンフレットを手に梶木典子教授(中央)を囲んで笑顔の学生たち

● 兵庫区の魅力を発信「ぶらり散策マップ」作成に協力 家政学科砂本研究室×明石工業高等専門学校

家政学部家政学科の砂本 文彦教授の研究室では、神戸市兵庫区役所まちづくり課と共同で散策マップ「兵庫区・平野界限」と「兵庫区・ノエビアスタジアム神戸界限」を作成。平成30年3月から同区役所や中央区の総合インフォメーションで配付されています。

歴史や産業遺産からグルメに至るまで、既存の価値観にとらわれず、さまざまな情報を発信する新しい感覚の散策マップを作るという観点から、兵庫区域住民以外の若者の視点を取り入れることになり、住生活文化学が専門の砂本教授に兵庫区役所から協力を依頼されこのコラボレーションが始まりました。同研究室のゼミ生3・4年生9名と国立明石工業高等専門学校 専攻科建築・都市システム工学専攻で同教授が



散策マップ「兵庫区・平野界限」と「兵庫区・ノエビアスタジアム神戸界限」



散策マップを手に笑顔のゼミ生



学位記授与式に完成が間に合った散策マップを手にした美馬優子さんと砂本文彦教授

授業を担当した「都市景観計画」の受講生1年生16名が一緒になって平成29年8月から12月の期間に、ワークショップ、まちあるき等を実施しマップづくりに参加しました。

このコラボレーションで、ワークショップを提案し、まちあるきのルールを作り指揮を執ったのは、砂本研究室の美馬 優子さんです。美馬さんは紹介マップ作成のためのより効率的な作業工程を研究し、魅力のあるスポットや更なる観光資源を発見するためには、グループの中でのコミュニケーションが活発に図れる雰囲気が必要であるという研究成果を卒業論文にまとめました。

自分たちの感性を盛り込んだ散策マップが、多くの人々に役立ち、街の活性化につながることを学生たちは願っています。(学生の年次は当時のもの)

就職支援協定締結・就職支援行事の開催

香川県との就職支援協定を締結

平成30年2月9日（金）に神戸女子大学・神戸女子短期大学は香川県との就職支援協定を締結しました。

神戸女子大学は愛媛県、広島県、鳥取県、兵庫県に次いで5例目、神戸女子短期大学は広島県、鳥取県に次いで3例目の就職支援協定です。

今後は香川県と連携をとり、学生のUターン・Iターン就職の促進を目指します。



浜田恵造香川県知事(左)と中島實学長

連携・協力事項

1. 学生や保護者に対する県内の各種イベント等の周知に関する事
2. 学内で行う就職相談会、企業説明会等の開催に関する事
3. 学生のUターン・Iターン就職に係る情報交換及び実績把握に関する事
4. 香川県内における学生のUターン・Iターン就職活動の支援に関する事
5. 県内企業等における学生のインターンシップ受入の支援に関する事
6. その他、学生のUターン・Iターン就職促進に関する事



とっとり就職カフェの様子

とっとり就職カフェ

平成30年2月1日（木）に神戸女子大学、鳥取県、公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構が共催し、須磨キャンパスのベーカリーカフェ・マーベルで「とっとり就職カフェ」を開催しました。これは、平成29年1月に鳥取県との就職協定の締結に基づき、学生のIUターン就職の促進を目指すために初めて学内での就職相談会、企業説明会の開催となったものです。

本学からは1年生から4年生まで12名の学生が参加し、鳥取県の企業・団体、鳥取県庁、鳥取県教育委員会などの担当者から就職情報、インターンシップ情報の提供を受けました。仕事の紹介や就職情報についてのミニ講義があり、その後3つのグループに分かれて、コーヒー・紅茶、焼きたてのパンやサンドイッチを片手にゆったりとした雰囲気の中で各担当者に質問や相談ができる時間が設けられました。

同県出身で管理栄養士として活躍している卒業生も講師として来学。特に管理栄養士養成課程の学生たちは具体的な仕事の内容や出身地で勤務できるメリットについて気軽に尋ねることができました。

故郷で就職するという選択肢について真剣に検討する機会として、就職カフェは今後も継続していきます。

「食育実践サポートチーム」の活動が本格的に開始

神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の4名の教員とそのゼミ生で構成している「食育実践サポートチーム」は、学生の健康維持・増進のため、健全な食生活に導くことを目的として平成27年に結成されました。その後は学内・学外のイベントに参加し、一般の方にも測定器を使った貧血チェック、血管年齢チェック、食生活チェックの結果を基に、効果的な食材の選び方や調理方法、栄養バランスの良い食事のアドバイスを行い、学生の学習の実践の場としています。

平成29年10月には、9月にオープンしたイオンモール神戸南店と地域連携プロジェクト協力に関する協定を結び、今後は本学学生はもとより広く市民の皆さんの健康の向上にも寄与し、地域振興のための活動を活発化する予定です。

平成30年3月10日（土）には、協定後の初めての活動として同店で、「健康美人は食生活から!!」をモットーにボランティアで健康チェックと食生活のアドバイスを行い、延べ337人の参加がありました。

食育実践サポートチーム構成員教員

- 橋本 加代准教授（専門：公衆栄養学）
 清水 典子准教授（専門：給食経営管理論）
 高橋 孝子准教授（専門：給食経営管理実習）
 安田 敬子准教授（専門：栄養教育論）



左から安田准教授、橋本准教授、高橋准教授、清水准教授

当日の活動は3年生（当時）の学生が中心で、一般の方に健康チェックの参加呼び込みや測定の実施、食生活アドバイスなど、さまざまなコミュニケーションをとる経験をしました。専門分野の知識を分かりやすく伝える大切さも学び、多くの体験ができたことに感謝しています。



「健康美人は食生活から!!」の活動の様子

4年連続！専門フードスペシャリスト資格認定試験 成績優秀で表彰される

平成29年12月17日（日）に実施された公益社団法人日本フードスペシャリスト協会の「専門フードスペシャリスト（食品開発）資格認定試験」（注）において、神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程3年生（当時）の松下 夏子さんが特に優秀な成績を収めた合格者に送られる優秀賞を受賞しました。「食品開発」部門は、今回520名が受験し合格者96名、合格率18.5%という難関でした。この資格試験に関して、日頃から授業の内容をきちんと理解し復習することを心がけていたということです。

松下さんは、食品について専門的な知識を増やし、体に良いといわれている食品がなぜ体によいかについて科学的理解を深めることが大好きです。現在は、3種類の豆（白インゲン、エンドウ、小豆）を用いて、これらの発芽前後におけるオリゴ糖の種類と含有量の変化について研究中です。実験することが好きな松下さんは大学院に進学し研究を続けたいと思っています。

松下さんは英語を習得することにも熱心で、短期間の留学も経験して語学力を磨き、今年の9月には、ハワイ・ホノルル市のクアキニ病院での実習にも参加します。クアキニ病院における管理栄養士の業務とチーム医療を体験できることも楽しみにしています。



松下夏子さん



卒論指導の木村万里子准教授に実験の指導を受ける松下さん



中島實学長とフードスペシャリスト委員会の教員（右から清水典子准教授、後藤昌弘教授、林利恵子准教授、宮本有香准教授）も一緒に受賞を喜びました

（注）資格取得には、公益社団法人日本フードスペシャリスト協会の正会員の大学・短期大学で「フードスペシャリスト養成機関」として認定された特定の学科で所定の科目を履修し、試験に合格すれば卒業時に資格認定証が交付される。従来のフードスペシャリストから、より高い専門的な知識と技能を備えていると認定するために平成26年度から、専門フードスペシャリスト（食品開発）資格と専門フードスペシャリスト（食品流通・サービス）資格の認定試験が行われている

神戸女子大学パン研究会とコープこうべのコラボ企画 「神戸ハイカラキャロットチーズメロンパン」開発

新学期のスタートにあわせ、神戸女子大学のクラブ「パン研究会」の学生が生活協同組合コープこうべ（以下コープこうべ）の「神戸メロンパンご当地フード化計画」に協力して共同開発した「神戸ハイカラキャロットチーズメロンパン」が平成30年4月6日（金）から、コープこうべ全161店舗で発売されました。

「パン研究会」は、平成29年9月に実施されたコープこうべ社内の商品開発コンテストに、外部団体枠で参加し、出品したオリジナルの「キャロットチーズメロンパン」が優秀賞に輝きました。これがきっかけで「神戸メロンパンご当地フード化計画」に協力することになり、形をラクビーボール型に変え、工場の生産ラインに乗るように改良を加えて新しいメロンパンとして発売されました。

発売の初日は須磨キャンパスに近い「コープ須磨」で試食会が開催され、多くの方に召し上がっていただき大好評でした。

- 商品名 「神戸ハイカラキャロットチーズメロンパン」
- 価格 138円+税
- 店頭発売開始 平成30年4月6日
- 販売終了 平成30年6月7日
- 販売チャンネル コープこうべ161店舗



「神戸ハイカラキャロットチーズメロンパン」の学内試食会で笑顔のパン研究会の学生たちとクラブ指導の足田満吉氏

神戸特有のラクビーボール型のメロンパン、兵庫県産の小麦を60%配合

「青少年を地域で讃える賞」を受賞

平成29年12月9日（土）に神戸市須磨区の区役所において「第18回青少年を地域で讃える賞」の表彰式が執り行われ、須磨区青少年育成協議会より神戸女子大学の学生消防団とスポーツ吹矢同好会の山下 茉莉さんが表彰されました。

団体 学生消防団 社会部門

平成22年に神戸市の消防団条例が改正され、学生が通学地の消防団に入団することが可能になりました。神戸女子大学では、早速この年に学生消防団が結成され、4名の学生消防団員が誕生しました。以後、ほぼ毎年、学生が消防団に入団し現在11名の学生が学生消防団に所属しています。当時の3年生5名が表彰を受けました。

学生消防団員は、放水訓練や消火器・ポンプ操作の訓練を受け応急手当を学び、地域の防火・防災の啓発活動や地域のイベントで会場内警備・駐輪場整備に活躍しています。主な活動イベントとしては、神戸市立須磨離宮公園「神戸まつり 須磨音楽の森」、須磨海岸「須磨ビーチフェスタ」、神戸総合運動公園「須磨区防災福祉コミュニティ大会」、メリケンパーク「神戸市消防出初式」があげられます。

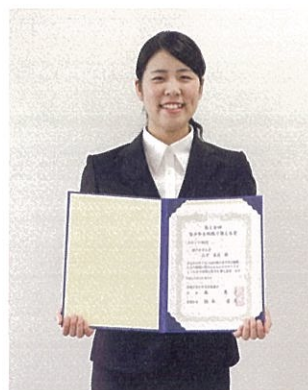
また、大学内の防火・防災訓練にも協力し、指導的な役割を果たしています。



個人 山下 茉莉さん スポーツ部門

山下 茉莉さん（家政学部家政学科）は、3年生（当時）で出場した平成29年5月27日（土）開催の第9回スポーツ吹矢兵庫県大会 女子の部6メートルで優勝。同年9月22日（金）のスポーツ吹矢近畿ブロック大会の同部門で1位と同点となり、1位決定戦の末、惜しくも2位となる成績を収めました。

腹式呼吸と胸式呼吸を順に使い、いっぱい吸った空気を勢いよく腹筋を使って吹くという「スポーツ吹矢式呼吸法」は、精神集中、血行促進の効果や誤嚥性肺炎の予防にもなると話題になっているスポーツです。ひとり暮らしの高齢者を招いて給食サービスをする「ふれあい給食」でも山下さんはその腕前を披露し、スポーツ吹矢の普及にも努めています。



「青少年を地域で讃える賞」とは この賞は、神戸市須磨区内の青少年で、社会、スポーツ、文化等の各分野で活躍する者を他の青少年の範として、また地域の誇りとして讃えることにより、本人のより一層の活躍とこれに続く青少年へ夢と希望を与え、地域ぐるみの青少年健全育成に寄与することを目的としている

学生考案

「白玉味噌汁」が「明石新のり恵方巻まつり」で大好評

神戸女子大学健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科の3年生（当時）高山愛さんが、平成30年1月28日（日）に明石魚の棚商店街中央青空楽市で開催された「明石新のり恵方巻まつり」（明石新のり・恵方巻まつり実行委員会が主催）で無料提供された「白玉味噌汁」を考案しました。

このイベントで、明石市市民生活局健康医療室は明石のりを使った新しい健康メニューを市民に提供し、健康診断への関心を高めるパンフレットも一緒に配付する活動を実施。その健康メニューを考えてほしいという要望が給食・栄養管理学を研究している佐藤 誓子准教授の研究室に寄せられ、地産地消を卒論研究のテーマにしている高山さんがメニューを考えることになりました。

高山さんは、明石のりを使った数種類のメニューを考案。その中で「白玉味噌汁」が当日のメニューに選ばれました。味噌汁に入っている団子は白玉粉と絹ごし豆腐を混ぜたものと、それに地元特産の「明石のり」のパウダーをたっぷり入れたものの2種類です。

当日は厳しい冷え込みの中、早朝から、高山さん、佐藤准教授、同じゼミの応援の学生、同学部の助手の4名が明石市職員の方と協力し、200人分の「白玉味噌汁」を調理。11時からの配付開始前にはすでに行列ができ、大好評で予定の時間を待たずに配付は終了となりました。

高山さんは現在、明石の特産のタコや神戸市の農産物を使ったレシピも考え、地産地消の研究を進めています。



「白玉味噌汁」と粉のりが入った団子（右）

「白玉味噌汁」のレシピ入りの健診を勧めるパンフレット



佐藤誓子准教授（左）の卒論研究の指導を受ける高山愛さん



「白玉味噌汁」を調理する高山さんと応援の橋本楓さん（右）



「白玉味噌汁」を手に記念撮影。右から佐藤准教授、川崎朝子助手、高山さん、橋本さん

学生消防団員 神戸市須磨区 優良団員表彰

平成30年2月3日（土）に举行された神戸市須磨区防災表彰式で、3年生（当時）の文学部教育学科の金納 美海さんと家政学部家政学科の梅田 綾美さんが地域防災への貢献により優良団員として表彰されました。

金納さんと梅田さんは1年生から消防団に入団し、これまでの3年間、地域の防災活動や啓蒙活動に積極的に参加しました。二人は神戸市の応急手当普及員の資格を取得し、迅速な救命処置の普及を目指す活動も積極的に行っています。

学生消防団員として活躍するのは、あと1年足らずの期間となりましたが、これまでの経験を生かして今後も地域の防災に尽力していく決意をしています。





発表会「劇あそび」

平成30年2月22日（木）・23日（金）に神戸女子大学附属高倉台幼稚園の園児176名が、年少・年中・年長組の各クラスで友達と一緒に創ってきた劇あそび発表会が行われました。

劇あそびは、各クラスの子どもの実態に合わせて担任の先生が読み聞かせをした絵本や物語の中から、題材を選びました。当日の舞台に飾る壁面や劇に使う小道具も、全て園児が協力して作りました。

お父さんやお母さんをはじめ、家族で観に来てくださった大勢のお客さまを前に、少し緊張して遊戯室に入ってきた子どもたちですが、担任の先生のピアノに合わせて劇が始まる

と、自分の役を立派に演じ、大きな声で歌いました。劇の場面が進むのに合わせて、場面を変える係りも自分たちで分担してやり遂げました。

それぞれのクラスの演技が終わるたびに保護者の皆さんは、一年間に心身ともに成長した子どもたちの姿に満面の笑顔で盛大な拍手を送りました。帰宅後は、劇あそびについて家族で会話も弾んだことでしょう。

この2日間は、文学部教育学科で幼児教育を学ぶ学生が発表会の進行補助を行いました。それぞれの年齢に適した発表会の題目の選び方や指導方法、遊戯の取り入れ方を学ぶことができ、有意義な時間となりました。

おおかみと7ひきのこやぎ



年少組

ももたろう



年中組

こんたのおつかい



年長組

ぶな森のなかまたち



劇あそび・プログラム

2月22日（木）

- ① めっきらもっきらどおんどん ちゅうりっぶ組（年中）
- ② おおかみと7ひきのこやぎ うさぎ組（年少）
- ③ ピーターパン ゆり組（年長）
- ④ たんたのたんけん ばら組（年長）

2月23日（金）

- ① 11ひきのねこ ふくろのなか すずらん組（年中）
- ② こんたのおつかい ひよこ組（年少）
- ③ ももたろう すみれ組（年中）
- ④ ぶな森のなかまたち さくら組（年長）



進行補助をする学生



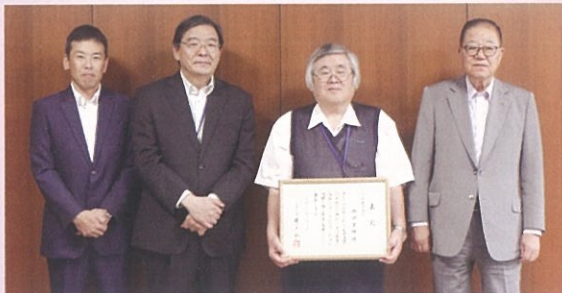
Information 学園からのお知らせ



表彰式

兵庫県功労者表彰について

平成30年兵庫県功労者表彰の受賞者が発表され、神戸女子大学文学部 教育学科の西田 実継教授が「学術教育功労」の功績により表彰されました。



受賞の報告をする西田実継教授

結果報告

第32回管理栄養士国家試験 (平成29年度)

神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の学生142名が受験し136名が合格、合格率は95.8%でした。全国の受験者は17,222名、合格者10,472名で合格率は60.8%でした。

結果報告

平成29年度 健康運動実践指導者認定試験

神戸女子大学健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科の学生が公益財団法人 健康・体力づくり事業財団の実施する健康運動実践指導者の認定試験で、32名が受験し30名が合格、合格率は93.8%でした。全国の合格率は57.1%でした。

授与式

名誉教授称号授与式

平成30年6月26日(火)に神戸ポートピアホテル「サファイア」の間において神戸女子大学の名誉教授の称号授与式が挙行されました。

式典では、中島 實学長から先生方へ「名誉教授称号記」並びに「名誉教授証」が授与されました。記念撮影後は和やかに懇談が行われました。



名誉教授称号授与式において記念撮影

アレクサンダー・シンソン先生

英米文学、ユートピア・ディストピア文学、比較文化・文学の研究・教育に従事。国連英検指導検討委員。神戸女子大学英文学会『タバード』編集委員。日本語文化学会“The LCA Journal”及び日本総合文化研究会“The JAIAS Journal”編集委員。フィクション・ノンフィクション作家。短編がオー・ヘンリー賞選外佳作に、2編が短編集に収録。

清水 緑先生

英語学の教育・研究に従事。トマス・ハーディの主要小説における色彩語の意味論、語用論的観点からの研究、ハーディの文学技法としての視覚技法についての研究で成果をあげる。英語の言語学的特性、言語学の方法論、英語のトレーニングなどの教育に取り組む。

榎田 達美先生

教育基礎論(教育原理)、「教育哲学」の領域の教育・研究に従事。S.A.キェルケゴールの実存思想に導かれながら、主としてF.D.E.シュライエルマッヘルの教育思想を追究。平成9年4月から4年間、平成27年4月から2年間大学院文学研究科・教育学専攻主任を務める。

高橋 和廣先生

専門分野は物性基礎論・統計物理学。磁性体の統計理論、相転移、超イオン導電体の理論的研究など。統計学、情報処理、資源エネルギー論、家庭電気・機械の教育に従事。平成18年4月から2年間家政学部家政学科主任。平成20年4月から4年間キャリアサポートセンター長。

長澤 治子先生

食品化学、食品学実験、食品衛生学の教育・研究に従事。食品の機能性、食品成分の生体調節機能、食品の安全性についての研究で成果をあげる。特に二段発酵茶(玄徳茶)の機能性の解析や応用の研究が注目される。全国栄養士養成施設協会理事長顕彰(平成26年)。

山本 隆子先生

「栄養教育・指導」の教育・研究に従事。「地域に伝承される郷土料理」「環境の異なる二地域に住する高齢者の生活環境」等、地域の人々と学生の交流をはかり食育教育の推進を行う。全国栄養士養成施設協会理事長顕彰(平成11年)。

梶原 苗美先生

肥満や糖尿病等の生活習慣病の予防と改善に効果がある種々の食品成分の研究に優れた業績をあげる。インドネシア、バリ島、パプア州における住民の健康・栄養調査でも注目される。平成13年4月から2年間家政学研究科長。平成18年4月から4年間入試広報部長。平成22年4月から6年間健康福祉学部長。



行事日程

- 7月
- 3 火 すいか祭り
 - 7 土 学園内編入学試験
 - 16 月 祝日授業日《海の日》
 - 21 土 オープンキャンパス
 - 23 月 【須磨キャンパス】前期授業終了
 - 24 火 【短大】前期定期試験期間開始
 - 30 月 【PIキャンパス・短大】前期授業終了

- 8月
- 4 土 オープンキャンパス(5日まで)
 - 10 金 【短大】前期定期試験・補講期間終了
【大学】補講期間終了
 - 11 土 《山の日》
 - 13 月 全学一斉休業(16日まで)
 - 18 土 オープンキャンパス
 - 24 金 【短大】前期定期試験結果、追・再試験発表

- 9月
- 3 月 【短大】前期追・再試験(6日まで)
 - 6 木 【大学】前期科目最終成績発表
 - 9 日 オープンキャンパス
 - 12 水 【短大】前期追・再試験成績発表
 - 17 月 《敬老の日》
 - 21 金 【大学・短大】後期授業開始
 - 23 日 《秋分の日》
 - 24 月 祝日授業日《振替休日》

- 10月
- 8 月 祝日授業日《体育の日》
 - 13 土 一般編入学試験
 - 20 土 【須磨キャンパス】学校教育学専攻科入試(一次)

- 11月
- 2 金 学園祭準備
 - 3 土 学園祭(4日まで)《文化の日》
 - 10 土 推薦入試前期(A・B・C・D、自己推薦、ファミリー)
 - 11 日 指定校特別推薦入試、社会人特別入試《創立記念日》
 - 23 金 祝日授業日《勤労感謝の日》

- 12月
- 15 土 推薦入試後期
 - 21 金 【大学・短大】年内授業終了
 - 23 日 《天皇誕生日》
 - 27 木 【須磨キャンパス】補講期間終了
 - 29 土 全学一斉休業(1月3日まで)

2019年

- 1月
- 1 火 《元旦》
 - 7 月 後期授業再開
 - 14 月 《成人の日》
 - 17 木 阪神・淡路大震災 鎮魂の日
 - 19 土 大学入試センター試験(20日まで)
 - 21 月 【須磨キャンパス】後期授業終了
(※PIキャンパスは31日・短大は30日終了)
 - 22 火 一般入試前期(23日まで)
 - 26 土 【短大】ブルーム展(31日まで)
 - 28 月 【短大】後期定期試験期間開始

編集後記

「神女広報CROSSROADS vol.26」の発行にご協力いただいた全ての皆様には心から御礼申し上げます。そして、毎号お読みいただいている読者の皆様にも感謝申し上げます。

昨年の「神女広報CROSSROADS vol.24」の特集は、「神戸女子大学・神戸女子短期大学新体制が始まる」というものでした。中島 實学長が大学と短期大学の学長を兼任し、それぞれの組織の特性を生かしながら学園が一体化し、建学の精神を堅実に実現するスタートを切ったことをお伝えしました。

今回の学園広報誌の記事の一つで、大学と短期大学が連携した行事が「おいしく食べるための工夫を学ぶ」公開講座です。大学の健康福祉学部社会福祉学科と短期大学の食物栄養学科の学生が、このイベントにボランティアとして一緒に参加しました。初めて言葉を交わす学生たちが、協力してそれぞれの責任を果たし講座の進行を支えている姿は微笑ましく、学生たちも互いに学び合うことが多かったようです。

今後も学園のさまざまな組織の連携によりシナジー効果が発揮される催しを読者の皆様にお届けしていく予定です。(M.O)

今号のバラ セレソン Seresso

スペイン語でサクラを意味する「セレソン」は、兵庫県産のモダンローズ(四季咲き性)です。今夏ロシアでサッカーのワールドカップが開催されていました(6/14~7/15)が、Jリーグで地元神戸のチームと関西ダービーを争うチーム名(Cerezo)としてご存知の方もいるでしょう。

「セレソン」は、1本の枝先にたくさんの花を咲かせるフロリバンダ系統(房咲き性)のバラで、ピンクから白の小花が集まって咲く姿はまるでブーケのようで、その名の通り、桜色に染まります。

今年新入学あるいは学生生活最終年を迎えた皆さんは、それぞれがこの一年の期待とともに春の景色を胸に刻んだ事でしょう。季節が夏から秋に変わると四季咲き性のバラは再び花開き、春とは違う表情を見せてくれます。後期授業を迎える秋に、その姿を通して春とは違うご自身の成長と変化を感じてみて下さい。'第2のキャンパス' 須磨離宮公園のバラ園で、冬の初めまで咲く「セレソン」がみなさんを待っています。

神戸市立須磨離宮公園 園長 青木 ひろみ